

# 発見 対話 交信 調和

知の拠点。世界へとつながる「情報」図書館

## 二つの名称:情報図書館と緑蔭堂文庫

成蹊学園創立100周年記念事業の一環として情報図書館が完成しました。情報図書館というのは建物の名称ですが、大学図書館がそのように命名された新居に移転するからには、この名称にふさわしい役割、つまり、さまざまな電子媒体にアクセスして情報を取り出し、交換し、共有する拠点としての役割を担っていかねばならないと思っています。

同時にわたし達は「緑蔭堂文庫」という名称も受け継ぎ、大切にしていかなければならないと思っています。というのも「緑蔭堂文庫」は、1938年、成蹊高校(旧制)に図書室を開設するに際して岩崎小弥太理事長(当時)が、ご自身の句集のなかの一句、「緑蔭清風 覧の音の ありところ」からつけられた名称だからです。書物をひもとき、先人の足跡と智慧に接することは、自ら進んで学ぼうとする人間、人格にもすぐれた人間を育てるうえで、なくてはならない大事なことだとされてきた学園創立以来の理念を大切に受け継ぎ、蔵書の一層の充実をこころがけていかなければならないと思っています。

また、多くの方々のご好意とご尽力によって収集された貴重な文献・史料についても、大切に受け継ぎながら、適切な仕方で閲覧の機会も提供していこうと考え、解説目録を作成し、開館記念の展示、レクチャーを行うべく、準備を進めているところです。

## 50万冊の本を自由に閲覧できる、各階の開架書架

地下には72万冊の収蔵能力をもつ自動書庫を設け、パソコンで検索してスピーディーに自動搬送できるシステムを導入していますが、それ以上に大きな特色をなすのは、50万冊におよぶ図書を自由に閲覧できる開架書架です。

「この本を見たい、探したい」と思ってやってきた場合でも、開架式なら「こんな本も、あんな本もある!」と、他の本にも目がとまり、予想外の書物との出会いや発見のチャンスが広がります。

欧米の復活祭(イースター)では、家のあちこちに隠されたイースターエッグ探しに、子どもたちは歓声を上げて夢中になったといいます。「図書館にイースターエッグを探しにいらっしゃい」と私はよく学生たちに話します。ここにくれば、自分自身で何か面白いものを見つけられる、そんな雰囲気図書館にしていきたいと思っています。

## 一人ひとりが自分に合わせて利用できる空間

情報図書館は「明るく、美しく、暖かい建物」をコンセプトに、入口は賑やかで、だんだん奥に入っていくごとに、静かになっていく、そんな空間づくりがなされています。

1階にはリフレッシュエリアが用意されていますので、ほっと一息ついたり、友人と語り合ったりできる。中に入れば、必要な資料を探したり、本を読んだり、映像を観ることもできます。1階から5階までの各階には、樺並木を眺めながら勉強できるガラス張りの個室閲覧室がフロアを取り巻くように配置されています。

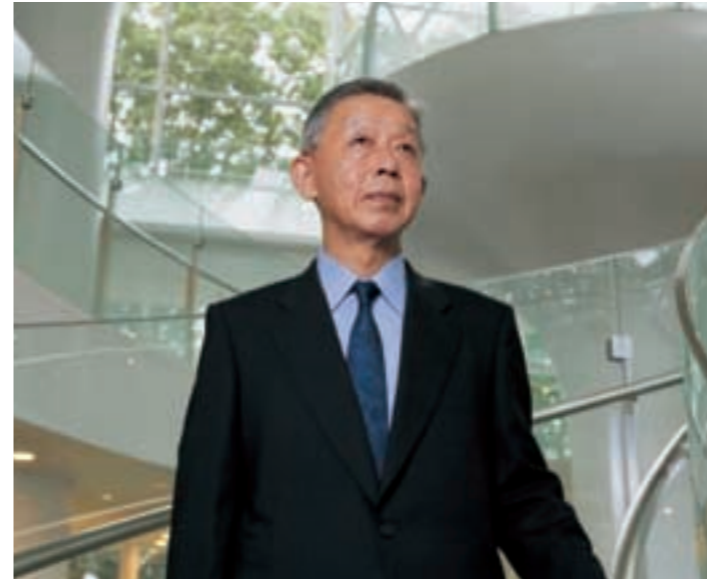
情報図書館は、一人ひとりが自分に合った利用方法を見つけていける多目的な空間なのです。必要に迫られて来るのではなく、時間が空いたから、あるいは雨が降ってきたからでもいい、まず気軽に入ってきてほしいと思います。

## 開かれた図書館を目指して

3階から5階のアトリウムの中空にレイアウトされた球体型の閲覧室「プラネット」は情報図書館を象徴するスペースとなります。各プラネットそれぞれに学生諸君に募って愛称をつけてもらうことも考えています。

ちょっとしたきっかけから、気軽に足を向け、やがて愛着をもってくれる、そんな図書館になるとよいのですが。

もともと構想段階からできるだけオープンにすることを考えて情報図書館はつくられています。大学生はもちろん、中高生、卒業生、在校生の保護者をはじめ、地域住民なども含めて、より多くの方々に利用の機会を提供していきたいと考えています。



館長 西藤 洋

経済学部教授。経済学説史や科学哲学を専門分野として、研究テーマ「実証主義の科学思想史」に取り組む。授業科目は「ミクロ経済学基礎研究」「公共経済」「法と経済」などを担当。日本経済学会、科学基礎論学会に所属するとともに、学内では全学入試委員長、財政委員長を歴任。